

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 <http://www.rotobo.or.jp> [年間購読料・送料共前納 18,000円]

2001年(平成13年)4月15日 No.1190

目次

ロシアの消費財関連産業の現状②	坂口 泉 1
統計速報 2000年のロシアの外国貿易統計② 主要商品別輸出入高	12
モルドバ共和国共産党大統領が誕生	15
CIS諸国通貨の為替レート	15

ロシアの消費財関連産業の現状②

はじめに 今回は、ロシアの消費財関連産業の現状②とし、ロシアの携帯電話市場、家電部門等の状況を紹介します。

3. 携帯電話市場

(1) 携帯電話加入者の状況

携帯電話加入者は、モスクワの各事業者が大胆な値下げを断行したことなどもあり、1999年以降急増している(第1表参照)。ただ、加入者の急増に伴い、モスクワの各事業者においては、加入者一人当りの収入が激減するという傾向が顕著となっている。たとえば、業界第2位のVypelkomでは、1999年8月には122ドル/月であった加入者一人当りの売上高が、2000年第4四半期時点では32ドル程度にまで落ち込んでいる(『ヴェドモスチ』紙、2000.9.7およびwww.sotovik.ru)。業界最大手で、財務状況が最も健全とされるMTSでも、1999年8月には84ドルであった当該の数値が、2000年第4四半期時点では50ドルに落ち込んでいる。

これは、加入時の料金が安いので携帯電話を買ってはみたものの、通話料金が高すぎてほとんど利用できない加入者が増えていることを意味するものと推測され、携帯電話加入者数の急増という事象のみを論拠として、短絡的に、ロシアの人々の生活水準が大幅に向上したと判断するのは危険だと思う。確かに、ロシア、特にモスクワの人々の購買力が向上しているのは確かであろうが、各事業者の財務状況の変化等を材料に新たに